2006/7/23

神　門　遺　跡　を　歩　く

— 低 湿 地 遺 跡 の 意 味 —

千葉市の遺跡を歩く会

「千葉市の遺跡を歩く会」が歩いてきた縄文時代の遺跡は主として貝塚でした。貝塚は貝層を目で見て確認できることから、わかりやすい遺跡で、千葉市が遺跡と指定しやすい遺跡です。しかし、近年、全国各地で河川流域などの遺跡である低湿地遺跡の発掘が進み、縄文時代の食生活/その容器/生活器具/道具/住宅の柱構造などがはっきりとわかるようになり、これまで想像の域を脱することができなかったことが実物から議論できるようになりました。

千葉市には低湿地遺跡の発掘がわずか 3 例あります。東大付属検見川グランド内にある落合遺跡、県知事公邸近くにある宝導寺台貝塚、そして今回見学する南生実にある神門（ごうど）遺跡です。

神門遺跡を知ることにより、縄文時代の生活を考えます。

参考文献

① 千葉県の歴史　— 資料編　考古学Ⅰ —　2000

② 千葉市神門遺跡　— 縄文早･前期を主とした低湿地遺跡の調査 —　1991

③ 千葉東南部ﾆｭｰﾀｳﾝ 31 —　ﾑｺｱﾗｸ遺跡 2･ﾑｺｱﾗｸ 10 号墳･上赤塚遺跡 —　2005

④ 千葉県市原市草刈遺跡　1985

⑤ 市原市草刈遺跡　2　2000

１．　上赤塚貝塚（後期）　≪ 図２参照≫

- 現在の海岸線から２.５km の内陸、村田川右岸にある標高約２８ｍの舌状台地にある貝塚。京成千原線・学園前駅から歩いて 2～3 分の所にある。有吉北貝塚から１ｍ、草刈貝塚から３kmに位置する。
- 上赤塚古墳群とともに、旧石器時代から中世までの遺跡を含む「上赤塚遺跡」を形成する。
- 約６k ㎡に及ぶ千葉東南部ニュータウンの造成に伴い遺跡の保存が検討されたが、造成部分/公園部分について、1993 年から 1999 年にわたり断続的に上赤塚貝塚の発掘調査が行われ、その後、出土品の研究が行われた。
- 上赤塚貝塚が面する上赤塚支谷の湧水は舌状台地を挟んで存在する泉谷(いづみやつ)とともに豊富であった。
- 貝塚：上赤塚貝塚は、「東貝層」、「北貝層」、「西貝層」、「南斜面貝層」で構成され、南に開口部を持つ馬蹄形貝塚。北/西貝層は縄文後期前葉、東貝層は後期前葉～中葉に形成された。但し、各階層の上部は後世に削平された可能性が高い。
- 遺構：主として貝層分布の外側に円形/方形の住居址が分布する。縄文早期の炉穴も発掘された。
- 貝：　イボキサゴ、ハマグリ、
- 魚：　詳細な記述なし
- 動物：詳細な記述なし

２．　神門遺跡（縄文前期～近世）　≪ 図３～図８参照≫

- 村田川右岸の平地、標高約 6～7mにある低湿地遺跡（舌状台地にある貝塚の標高は 30m 前後）。
- 1985 年、河川改修事業と道路建設事業に際して貝層存在から調査され、縄文前期貝塚として紹介された。
- 地形：縄文海進があった縄文前期には海は森台貝塚がある舌状台地近く、神門遺跡近くまで入り込んでいた。気候が寒くなるに従い、地盤隆起も手伝って海は徐々に退き、砂堆（砂州）が何条かできた。古墳時代にはこれらの砂堆の上に古墳が築かれた例もある(村田川河口近く、JR 八幡宿駅西に古墳が存在する)。砂堆形成に従って沖積平野が成長し、現代の地形になった。
- 貝層：縄文早期と縄文前期の 2 層があり、いずれの層もハマグリ、ハイガイ、マガキからなり、稀にオキシジミが見られる。東西の幅は３２ｍ、最も厚い部分は２.６ｍであった。
- 集石跡：貝層を取り囲むようにして石を円形/楕円形に敷いた遺構が点在する。直径 35cm～２ｍ、中には焼かれた石もある。貝などを調理加工した跡？
- 動物：貝層から、７頭分のイルカの骨が発掘された。解体痕が見られることから、何らかの方法でイルカを捕らえ、ここで解体したと考えられている。

  貝層に直径１～２ｍの魚骨の集積が４つ発掘された。クロダイ属が約 90%を占めた。

  土器片内面に付着したスス中の油脂分析から、炭素数 20 以上の高次不飽和脂肪酸が多く検出される場合があり、海洋動物を多く料理していたと考えられる。

- 木片：縄文時代から近世までの木片、計 4915 点が出土した。加工された木片は中世以降のものが多い。古墳時代には植生にヒノキは少ないのにかかわらず、加工品にはヒノキ製が多い。また、スギも加工品に使われる例が多かった。但し、縄文時代には古墳時代以降に使用されないヤマグワ、タラノキ、クマシデなども加工品に使われた。縄文時代の木製品としては工具の柄、ツチノコ(網錘)、ツルヒモ、半割材など。
- 果物等の種：　モモ、ウメ、スモモ、ヘビイチゴ、ホタルイ、イワボタン、コウホネ、ノブトウ、スミレ、ハダカホウズキ、イイギリ、ミズキ、クマノミズキ、ハクウンボク、エゴノキ、クサギ、ニワトコ、サクラ、キイチゴ、フジ、サンショウ、キハダ、ニガキ、アカメガシワ、イタヤガシワ、イロハモミジ、トチの実、ムクロジ、ミツバウツギ、ブドウ、クマヤナギ、タラノキ。クリ、コナラ、アカガシ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、クワ、ヒメコウゾ、ホオノキ：これらの果実を食べたとは限らないが、神門遺跡で人が活動した時代の植生を示す。

３．　草刈貝塚（後期）　　≪ 図９参照≫

- 現在の河口から約５km の村田川右岸に位置する。
- 縄文中期の環状集落を中心とする遺跡。130×80ｍの範囲に、主として外側に住居址、内側に土坑が存在し、中心部には遺構が少ないという形状。
- 千原台ニュータウン造成により、調査が 1978～1997 年に行われ遺跡は姿を消した。しかし、発掘された遺物は研究された。
- 貝：　イボキサゴが主。小型のハマグリがそれにつぎ、その他の貝としてシオフキが上げられる。
- 魚：　イワシ類が最も多く、コチ、アジ類、サメ類が見られる。
- 動物：イノシシ、シカ、ウサギ、タヌキ、カワウソ、カモ類、キジ、クイナ類などが見られる。
- 打製石斧、磨り石が多数出土し、イモ類/堅果類の採取が盛んに行われたことが想像される。
- 住居址を中心に、46 体の人骨と装飾品が出土した。

以　上